

アジアにおける取組

アジア＝世界で最も大きな潜在力を有し、「開かれた成長センター」として世界経済に貢献することが重要。

危機の影響への的確な対応＋成長力の強化・内需拡大

【これまでの取組の例】

1. 日中韓サミット(昨年12月13日、福岡県太宰府市)

- －日韓間、中韓間の通貨スワップ取極の増額を歓迎。
- －昨年11月の金融・世界経済に関する首脳会合の合意内容を着実に実現し、地域協力を強化することで一致。

2. チェンマイ・イニシアティブ(CMI)の強化

- －CMIのマルチ化(※)の早期実現を目指し、ASEAN+3各国との間で検討作業を加速化。

(※複数の二国間通貨スワップ取極を一本の契約にまとめ、各国が自ら運用する形で外貨準備をプールすること)

3. 第二次補正予算における対アジア緊急支援

- －ASEAN緊急支援拠出金→世界的な金融混乱及び景気後退の影響を受けやすい分野・人々への緊急の支援(70億円)
- －アジア大規模自然災害対策支援拠出金→ミャンマー・サイクロン被災を受けた復旧復興支援、及びASEANの災害緊急対応能力向上のための物資備蓄支援(30億円)

4. 地域開発

- －日本はメコン地域開発へのODA拡充を表明(2007年1月)。
- －デリー・ムンバイ間産業大動脈構想につき、昨年10月に日印首脳間で協力していくことを確認。

★さらに、来る東アジア首脳会議(EAS)に向け、**更なる具体策をアジア諸国と共に検討を行う。**

総理特使の派遣：豊田正和内閣官房参与及び鹿取克章ASEAN担当大使が、昨年11年28日から12月22日にかけて、比、ラオス、シンガポール、インドネシア、越、カンボジア、マレーシア、印、韓を訪問し、EAS等において首脳間で具体的方向性を共有し、一致して取り組んでいきたいとの我が国の立場を説明。各国からは麻生総理のリーダーシップに謝意が表明されるとともに、早期にそのような取組を進めていきたいとの反応が示された。

★日本は、ODA、OOFから民間資金まで動員し、アジア諸国を後押し。